たちばな新聞

橋塔苑　睡蓮堂　水谷山寶清寺　たちばな会館

秋のお彼岸

今年の秋のお彼岸期間中に、当寺のお檀家でもあり、世界的切り絵作家蒼山日菜さんのレース切り絵展を開催致します。九月二十日（日）十一時より、蒼山日菜さんのトークショー＆サイン会を入場無料で行います。

お会式

十月十二日（日）十一時より、お会式法要を厳修致します。お会式は宗祖日蓮聖人が亡くなられたご命日です。ご参加下さるようご案内致します。

聞法聖人遺訓　第四十三回

「慈悲なき者を邪見の者という」

（顕謗法鈔）

このご遺文は、日蓮聖人が法難を受け、正しい教えを謗る罪について示された論文の一節です。**慈悲とは、人として持たなければならない大切な心です。**その意味は、慈しみと哀れみのことで、他者の苦しみを除き、楽しみを与えることであり、他者の幸せを祈る心の事です。**慈悲の心が薄くなれば、自己中心的になり、邪な考えに陥ります。**このような人が増えれば、道理がとおらなくなり、社会は不安になります。社会が不安になれば、個人の幸せはありません。**慈悲の心を自分に確認し、他者の幸せを祈ることが合掌の姿なのだと思います。**

蒼山日菜さんのお母様が昨年の十二月に逝去され、副住職が通夜・葬儀をお勤めさせて頂いたことがきっかけで、当山にお墓を建立しお檀家になられました。

ご存じの方も多いと思いますが、蒼山日菜さんは今年、身延山に近い、富士川・切り絵の森美術館で「レース切り絵の世界」が開催されるなど、現在、国内を拠点に海外でも活躍し、切り絵作家として個展等も数多く開催しています。

七月に埋葬と新盆の供養を済ませましたが、その折、大変お世話になったので、「何かお寺にお役に立つことがあればお手伝いさせていただきます。」とのお話を頂き、お檀家の皆様にも滅多にない機会でもあると考え、秋のお彼岸の期間中、墓参の折に参加しやすいように、別紙の内容で、たちばな会館において、「世界的切り絵作家蒼山日菜レース切り絵展」を、九月二十日（日）十一時より、蒼山日菜さんの「トークショー＆サイン会」を開催することに致しました。また、十月十七日（土）十八日（日）の両日、蒼山日菜さんによる切り絵体験を開催する予定です。

切り絵体験は、切り絵展開催期間にご案内を会場で配布し、お申込（電話でも可）を受け付けます。なお、ご案内は、宝清寺のホームページでも確認出来ます。

是非、蒼山日菜さんのレース切り絵の世界を堪能して頂ければと思います。

住職ひと口法話　第四十三回

六年生の孫が修学旅行で日光に行き、お土産と友達と楽しそうに写っている写真をプレゼントしてくれた。私は、早速、友達と三人で撮った写真から、孫だけを切り取る加工をして、スマートフォンの待ち受けに貼り付け家内に見せたところ、家内は、「こっちの方が可愛いんじゃない。」と壁に貼った写真を示した。私が見たら、私が加工した写真と同じものだったので、「同じ写真だよ。」と指摘すると、家内は、「違うでしょう。」と言いながら再度見て、「あら同じだね。」と言った。**同じ写真なのに三人が楽しそうに写っている写真と、孫だけを切り取った写真とでは、別の写真のように印象が違うのにい出した。**『ある雑誌社の応募に当選した主人公が、雑誌社から写真の提出を求められ、手元にあった彼女と恋愛をしていた頃の写真を切り離して、残った写真を見て、自分は「なんとつまらない女に恋をしたのか。」と落胆する。別れた彼女が雑誌に掲載された写真を見て、同じ事を思うだろう。「しかし、主人公は考える。もし彼女と写した写真がそのまま雑誌に載り、それを見た彼女は、「なんでこんな素敵な人と別れたのか。」と悔やみ、「自分のところに帰って気はしないか。」と思った。』というものだ。**同じ事柄でも、多角的見方をしないと、「物事の本質を見誤るのでは・・。」と考えさせられる出来事だった。**

驚いた。川端康成の短編「掌の小説」の中に、「写真」と題する一遍があったことを思

!?仏事Q&A　第十四回

葬儀に関する質問に答える特集を平成二十六年三月の第九回Q&Aから継続しています。

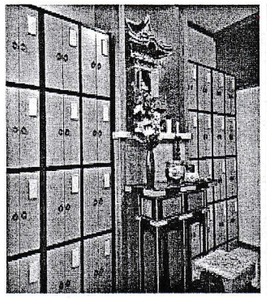
今回は六回目に当たります。

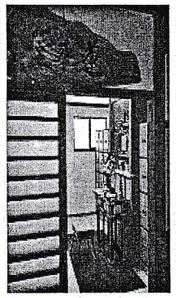
Q ⑲ 「死体火葬・埋葬許可書は、いつまで保管したらよいのですか。」

A 「死亡届けを出すと、「火葬許可書」が交付されます。火葬の当日、「火葬許可書」は火葬場の管理者に提出します。ここで交付される「火葬証明書」は、埋葬の時必要な「埋葬許可書」になります。「埋葬許可書」は墓地に埋葬する時に、墓地管理者であるお寺（霊園墓地の方は霊園墓地管理者）に提出します。「埋葬許可書」は、五年間保管義務があり、再発行はしてもらえませんので、取り扱いは慎重にする必要があります。

Q ⑳ 「相続人不在の理由で後継者がいなくなった場合の墓地はどうなるのですか。また、永代供養とは具体的にどういうことですか。」

A 「墓地を所有している寺院で無縁仏として扱うこともありますが、当山では、関係縁者に返還の手続きをお願いし、永代供養に切り替えて頂くようにお願いしています。**永代供養とは、法要を執り行う人がいないなど、何らかの事情があり法要や供養ができない場合、墓参りをしなくても寺院が遺骨の管理と供養をする制度のことで、当山では、永代供養の墓として、本堂南側墓所内に「睡蓮堂」と、今年、新たに、本堂位牌堂内に、「蓮華堂」を増設致しました。**





永代供養は、墓石代が掛からないので安価であることに加えて、最初の永代供養料を納めるだけで管理料を納める必要はありません。また、永代供養に切り替えた以降、別途ご法事を行う場合以外、費用負担がないのが特徴です。現在墓地を所有されている方が永代供養に切り替えることも可能ですのでご相談下さい。

日蓮聖人伝

「立教開宗の朝」

日蓮聖人は、京都・奈良のご遊学を終えられ、安房国清澄に帰えられたのが、建長五年（一二五三）でした。

四月二十八日未明、清澄山の高台に登られ聖人は、昇る朝日に向かって「南無妙法蓮華経」と、お題目を唱えられました。朝日に遥拝されたあと、清澄寺に戻られご遊学の成果として説法をなされました。

聖人は、鏡内でのご遊学において、なぜお釈迦様はお一人なのに、多くの宗派が林立してしまったのか疑問に思い、多くの寺院を訪れ、経典を研究した結果、お釈迦様の出世の本懐（釈迦が、この世に登場した本当の目的）は法華経を弘めるためであったと、結論づけました。

お釈迦様は、法華経をお説きになる以前にも、多くの教えを人々に説いています。

しかし、お釈迦様から直接教えを受けた人（随他意経）であったとしても、間接的に聞いた人には誤解を招いてしまう恐れのある教えが含まれていました。

お釈迦様は、寿命が尽きる時を知り、晩年に、法華経を説かれました。

法華経はお釈迦さまの心に従った教え（随自意経）であり、究極の教えが説かれています。しかし、その内容は複雑で、理解するために、多くの高僧が解説書（論書）を作りました。

聖人は、末法の世には、この法華経こそが信奉する教えであると述べられました。

また、法華経を教え弘めるための正しい系譜を述べられ、釈尊の直弟子や天台大師、伝教大師、日蓮聖人と続く歴史的な系譜と、釈尊が法華経内で付託（教えを弘めることを依頼）する上行菩薩から聖人へ続く主観的信仰の系譜をたてられ、聖人は、その双方の正当な伝承者と自覚されました。

しかし、法華経を弘める者は、多くの困難（法難）に出会うと、法華経の中で預言されており、まさに清澄寺での説法から聖人の波瀾に満ちた弘教の人生が始まるのです。

お会式

今年のお彼岸は、九月二十日（日）から九月二十六日（土）の一週間です。二十日の入りの前日が土曜日ですので、長い方は五連休になります。

彼岸は、御先祖様の供養をすることはもとより、ご自身を見つめ直す時期でもあるのです。

暑さ寒さも彼岸までと言います。秋風が吹き、心地よい季節が到来すると、夏の疲れが出やすくなり、心身ともに怠惰になりがちな季節とも言えるでしょう。気持ちを新たにし、お彼岸をお迎えください。

御会式とは、日蓮聖人がご涅槃に入られた日の行事です。

ご涅槃とは、入滅されお釈迦様のもとに旅立たれたことを意味します。

この日は二通りの解釈があり、残された者にとっては、今生の別れであり、とても嘆かわしい日でもあります。また、この世での御修行が終われば、安穏な霊山浄土に旅立たれた日で、お祝いと考える向きもあります。

【お会式法要】

十月十二日十一時より厳修いたします。

釜締札

釜締札とは、年末に頒布致しますお札の総称です。詳しくは、神棚の幣束、台所の神様である、「普賢三宝荒神」様、不浄な所を清浄にしてくださる「烏枢沙摩明王」様、井戸の守護する幣束などのことを言います。

年末は、家内を清掃し清浄にしたうえで、新神様をお迎えし、良い年を迎えたいものです。

お申し込みされる場合は、お電話で結構です。ご不明なことがございましたら、ご連絡ください。

編集後記

七月、八月は、お盆の月でした。棚経（お盆供養）をご依頼頂いたご家庭にお伺いし、御先祖様に法味（お経）を捧げてまいりました。

連日の酷暑の中、御先祖をお迎えし、懇ろなるご供養をなさって頂いた皆様には謝辞を申し上げます。

最近、皆様のご家庭に棚経でお伺いし、少し変化があることに気づきました。高齢の方のご家庭が多く吹き始めたり、黒い雲が天空を覆い始めたり、なにがしかの変化を感じる場合は、風雨から避けられる場所に避難し、通り過ぎるのを待ってください。しばらくすれば天候は回復することもありますので、無理をして大雨の中を行くことは危険です。

特に河川での増水は注意が必要です。川上のほうに黒い雲が湧いて出てきたときは、水から出るだけでなく、河原から避難し、高台に上がってください。川での急激な増水は大変危険です。

宝清寺の草花

鶏頭（けいとう）は晩夏から秋風が立つ頃の花のイメージがありますが、八月上旬の盛夏から見ることの出来る花です。

西洋でも cocks-comb と呼ばれているので、洋の東西を問わず鶏の頭のように見えるのでしょう。

また、別名もあり鶏冠（けいかん）や韓藍（からあい）という呼び方もあります。

七～八世紀頃に成立した万葉集にも、韓藍の名がみられることから、古くから馴染みのある花だったようです。韓藍の名前からも想起される方もいらっしゃるでしょうが、染め物の材料としても利用されました。

万葉の人々は、鶏頭という名を知ってか知らずか、韓藍と呼称したとです。近年では熱中症による死亡事故が多発し、テレビなどでも連日のごとく注意喚起がなされていますが、未だにその数は減らず、若年者でも熱中症による救急搬送の報道がなされています。

また、突発的な気象変動も頻繁に起き、その被害は計り知れないものがあります。突然の雷雨には前兆があり、涼しい風が多く吹き始めたり、黒い雲が天空を覆い始めたり、なにがしかの変化を察知した場合は、風雨から避けられる場所に避難し、通り過ぎるのを待ってください。しばらくすれば天候は回復することもありますので、無理をして大雨の中を行くことは危険です。

特に河川での増水は注意が必要です。川上のほうに黒い雲が湧いて出てきたときは、水から出るだけでなく、河原から避難し、高台に上がってください。川での急激な増水は大変危険です。

ろに雅（みやび）な優美さを感じさせられます。

私の子供の頃は、真紅のベルベットを鞠（まり）にした様な形が多かったように記憶していますが、最近では槍（やり）のように穂先がとがったものや、シャコ貝の口のようにギャザーが縦に連なっているものもあり、多くの種類を見かけるようになりました。

色はオレンジや赤が多く、変わり種として黄緑色、紫や桃色もあるようです。宝清寺では諸処で咲いています。色々な種類を探してみてはいかがですか。

宝清寺の年間行事

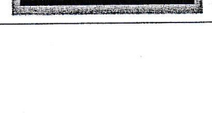
三月彼岸中日	塔婆供養
四月八日	花祭り
七月十七日	盂蘭盆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	塔婆供養
十月十二日	お会式法要

日蓮宗の聖日

二月十五日	釈尊涅槃会
二月十六日	宗祖降誕会
四月八日	釈尊降誕会
四月二十八日	立教開宗会
五月十二日	伊豆法難会
五月十七日	身延御入山
七月八日	本尊始顕会
八月二十七日	松葉谷法難会
九月十二日	龍ノ口法難会
九月十八日	池上御入山
十月十三日	宗祖御会式
十月十二日	小松原法難会

御祈願・御供養

交通安全	
商売繁盛	
虫除封じ	
開運祈願	
安産祈願	



宝清寺では、花祭り（灌仏会）、お盆（盂蘭盆会）の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

発行・日蓮宗水谷山宝清寺
住所・東京都あきる野市小川一〇一
電話・〇四二一五五八一二六六三
FAX・〇四二一五五八一二六九三
インターネットホームページ
http://www.abauone-net.jp/housei/
メールアドレス
housei@ac.auone-net.jp